

松本日本語カフェ『Mカフェ』の実践について

松本市 鶴賀 幸

設定した課題

- 「外国人の親が交流し、日本語を学ぶ場が必要だが、まだない。」
- ・子どもの生活、社会参加には、親の社会参加が必要。
- ・松本市には外国人と日本人が「親」としての共通課題を持って交流する場がない。

現状把握
課題設定

課題解決のための方法と手順

- ・ H26年度文化庁委託事業で集まった松本市の仲間と有志スタッフのグループを結成
- ・ 松本日本語カフェ『Mカフェ』の立ち上げ
- ・ Mカフェスタッフミーティングの開催
(11月3日～3月7日 計10回開催)
- ・ 個人、行政機関との連携づくり (会場[公民館]の無償提供、複数の行政窓口との連携、手法についてのアドバイスが得られた)
- ・ 日本語教室・日本語教育関係者との連携づくり
(Mカフェのお知らせ、参加者を紹介してもらう)
- ・ 先輩外国人お母さんを招いて体験を聴く会 (Mミーティング)
- ・ Mカフェスタッフのトレーニング実施
(平成26年度文化庁委託事業のOJT、ファシリテーションに関する講義を受講)
- ・ 外国人お母さん・日本人お母さんへの広報
(お友達カード、招待状などの人海戦術)
- ・ プログラムメニューの検討
 - ① 当日の参加者・スタッフの各テーブルの席位置
(各テーブルごとに、外国人お母さん・外国人先輩お母さん・Mスタッフを配置する。外国人お母さんと日本人お母さんはペアで座る)
 - ② 参加者が各場面ごとのブースをまわる体験型ロールプレイ
 - ③ こんな時どういうの?(間違いやすい表現を使ったプチレッスン)
 - ④ フリートーク、M外国人スタッフの出身国の音楽を使ったリフレッシュタイム
(ダンス、ゲーム)
 - ⑤ マテリアルの作成
(日本の就学の仕組み表、病院の間診票の書き方、幼稚園・学校への電話会話スキットなど)

ファシリテーション

連携

リソースの把握と活用

方法の開発

成果

- ・ 3月28日(土)、4月11日(土)、4月25日(土) Mカフェの開催決定
- ・ Mスタッフのコーディネーターとしての意識向上と経験
- ・ 新しい人材の発掘 (日本人・外国人)
- ・ 外国のお母さんのMカフェスタッフへの参加
 - ➡ 外国人お母さんの社会参加
- ・ この活動について、地域社会からの理解と協力が得られた

課題

- ・ Mカフェ開催後の人材活用と、プログラムの改善と活用
- ・ 集めた外国人お母さんの体験談、ニーズ、アンケートの活用
- ・ Mカフェモデルの可視化と活用

